

## 大学教育における人間関係研究への学生の自主的アプローチ

人間関係科専門科目「研究プロジェクト」の1998年度授業報告から

中野 清 (南山短期大学教授)  
津村 俊充 (南山短期大学教授)  
中村 和彦 (南山短期大学助教授)

### 1. 研究プロジェクトの位置づけと枠組み

人間関係科の専門科目として、「卒業研究」から「研究プロジェクトA」、「研究プロジェクトB」という科目名称に変更し、従来の必修科目から選択科目になり、まさに自主的な研究活動を試みる科目として実現することにした。これらの科目は、基本的には前・後期と通年で受講することを勧めるが、単位認定は半期毎に行うことにした。新カリキュラム検討時には、学生の活動内容と学生の申告によって、任意に単位数は決められるようにすることを考えていたが、現在の所、前期3単位、後期3単位で実施している。

研究プロジェクトでは、カリキュラム化された授業の中で学生にとって満たされないものや自分でやってみたいことなど、学生自身が、自ら目標を決め研究活動を実践する科目として設定している。それゆえ、学生自身が、研究プロジェクトのねらいとテーマを設定し、実施案を作成して実行してゆくことになる。その際、学生は適宜教員からの助言をうけることになる。設定するテーマの領域に関して特に規制は設けていない。基本的には興味・関心が似ているメンバーが集まってグループを形成し、グループ研究を行う。これは、人間関係科の教育として大切にしている、グループ・プロセス、メンバー間の生の人間関係を大切な学習素材として、メンバー一人ひとりの人間関係を学ぶこともこの研究プロジェクトでは重要な学習の柱にしているからである。

学生がこれまで取り組んできているグループ研究の種別を大別すると、調査研究タイプ（いわゆる卒論型）の活動、プロジェクトタイプ（もの作り、演劇、問題状況変革など）の活動、両者の混合タイプの活動などが考えられる。

学生便覧のシラバスでは、履修条件として、数人でグループを組んだうえで、

一つの課題を設定して研究やプロジェクトをすすめること、また研究プロジェクトをすすめる過程でおこるグループ・プロセスにも焦点をあてることが要求されることを明記している。

## 2. 授業内容について

1998年度の研究プロジェクトの授業展開に関しては、表1（前期）と表2（後期）に示している。

基本的には、受講者の関心に基づいて、授業は展開されるが、以下のような研究プロジェクトを行う際に大切な視点やモデルの提供を行ったり、スキルトレーニングも行っている。

- グループ・プロセスとは何か 何を見るか
- アクションリサーチとは
- 発表のためのレジュメ作成やプレゼンテーションの仕方について
- レポートの作成方法について

### (1)前期の授業の流れ

第1回：4月10日

研究プロジェクトの授業のねらいと全体の日程の提示をまず行ってから、受講者の一人ひとりがどんなことをこの1年間に組みこんでみたいかを考える時間をとっている。その時、ただ、何かやりたいというだけでなく、そのやりたいことがどんなことを変えようとしているのか、自分が取り組むことで何に変化をもたらそうとしているのか、変革課題が含まれていることを大切にしている。これは、ただ調査研究をするような研究プロジェクトを行うのではなく、研究活動の視点には絶えず「アクションリサーチ」の視点が含まれていることを要求しているのである。第1回目の授業の最後には、一人ひとりがやりたいことを宣言するようなプレゼンテーションの時間を設けている。また、ふりかえりとして、今日一日の私の気づき学びも記述することをしている。

第2回：4月17日

前回の一人ひとりの関心事をもとにしながら、グルーピングを行っている。このグループ作りにけっこう時間を要するが、教員スタッフとしてはできるかぎり丁寧に関心事を聴きながら、グループ作りをサポートしている。グループが形成された後で、最初のグループのミーティングの時間をとり、今後の計画を立てている。前期グループ計画表の見本(図1)を学生に示し、4月30日までに提出することを求めている。

第3回：4月24日

コンピューターを資料作成のために使用できるように、第3回目の授業時間には、コンピュータ室の職員の協力を得て、パソコン講習会を開き、基本的なワープロソフトの研修を行っている。

第4回：5月1日

研究のアプローチの仕方として、「アクション・リサーチ法」についての小講義を行っている。そして、「プレゼンテーション用のレジユメの作成の仕方について」の基本的な要件と書き方の説明を行い（図2）、前回学習したパソコンを用いてレジユメ作成をするように要求している。

第5回：5月8日、第6回：5月15日

この2週は、グループの活動日として、自分たちの活動計画を実践していくことになる。また、最初のプレゼンテーションに向けての時間的プレッシャーを感じながらも、各グループの問題意識をより明確にしていく期間にもなっている。

第7回：5月22日

各グループがお互いにどんな活動をやっているかを提示しあう、まさにグループ活動の旗揚げとなる全体会である。相互に活動内容を聴きあうことで、研究プロジェクトが、それぞれのグループごとの活動だけではなくて、受講者相互に理解し合い支えあうような学習共同体としての意識が生まれる働きも、このプレゼンテーションのプログラムはもっているのである。このプレゼンテーションが終了後に、メンバー一人ひとりのプレゼンテーションまでの活動の自己評価を記入用紙にメモし、グループごとに話し合っている。そして、最後に、グループの主たる担当となる教員について学生に希望をとり、授業後のスタッフミーティングで、3人の教員が話し合っ各グループ担当の主アドバイザーを決めている。

第8回：5月29日、第9回：6月5日

プレゼンテーションでの学生の仲間からのフィードバックや教員のコメントや質問を参考にしながら、グループ活動を発展させていくことになる。

第10回：6月12日

最終課題であるレポート作成について、資料（図3）を提示しながら説明している。その後、グループ活動のプロセスに関するデータの収集と考察を行うために、「コンテンツとプロセス」についての小講義と各グループにふさわしい自分たち用のふりかえり用紙作成を行っている。このふりかえり用紙の作成

は、その後のグループ活動で利用されるようになり、レポート作成と発表会でのグループ・プロセスの考察のため有効に使われるようになる。

第11回：6月19日、第12回：6月26日

この2週は、前期の活動の締めくくりにもなる自主活動期間になっている。

第13回：7月3日

前期発表会として、各グループがいかに仲間たちに向けて、自分たちのグループ活動の内容とグループ・プロセスに関心をもって聴いてもらい、理解してもらうかをよく検討し、工夫したプレゼンテーションが行われる。我々スタッフも学生たちに、よりインプレッシブなプレゼンテーションとレジュメ作成が行われるように、それぞれにプレゼンテーション大賞とレジュメ大賞とをプレゼントしている。

第14回：7月10日

前期の発表会を終えて、各グループごとのふりかえりを行うと同時に、夏休みと後期に向けての今後の計画を練り、計画表を作成し提出してもらっている。それとあわせて、3人の教員と学生との面接の時間を持ち、前期活動の教員スタッフの意見とか質問を行い、グループ活動の充実のためのサポートをしている。

## (2)前期のグループ活動のテーマとねらいについて

以下に示したのが、1998年度の前期の研究プロジェクトAのグループ名とテーマとねらいを書きだしてみた。今年度は、45名の受講者で13グループが形成されて、研究活動が進められた。

グループ名：くれらぶよん

テーマ：くれよんをつくろう！～くれよんはみんなのために、みんなはみんなのために～

ねらい：幼い頃は、クレヨンをよく使っていたが、小学校高学年以降ほとんど使わなくなった。ところが、人関では必須アイテムといってよいほど、活躍している。しかし、私たちは普段それをよく使っているにも関わらず、どのように作られているかも知らない。一体どのような材料を経て作られているのかを知りたい。

グループ名：めんこくたい

テーマ：めんどくさがりを克服する

ねらい：前期・後期に分けて、グループ3人で何かひとつの事をやり遂げることで、達成感を味わう。

グループ名：プロジェクトG

テーマ：人種差別～ヒットラーとユダヤ人～

ねらい：研究プロジェクトの時間を使って、平凡な学生生活に終止符をうち、充実した研究をすることで、短大生活の一つの大きな成果として自分たちの心に残るものに仕上げる。

グループ名：ENJOY PLAYING

テーマ：演劇による自己表現

ねらい：演劇をすることや準備過程において、個人とグループの成長に気づき、皆の心に届く劇を作る。

グループ名：Dolphin's

テーマ：お互いのことをより知り合う

ねらい：自己満足で終わらせず、人関を越えて、自分を生かす。その場での感動をそのとき、そのまま素直に表わす。感受性を高める。

グループ名：なっちゃん／おーちゃん

テーマ：今しかできないことをしようよ計画＊19歳の目で見る日本の福祉、外国の福祉＊

ねらい：福祉に視点をおいて日本と外国の福祉を見たい。昨年のフィールドワークでほんの少し見た日本の福祉、自分たちの経験を生かして見る。多くの人と出会い、出会うことで、私たちの中に生まれるものを大切にしたい。

グループ名：ガイヤ

テーマ：部落問題を考える

ねらい：自分たちの知らない部落差別について、とことん考える。その結果、それぞれのねらいに向けてどう変化するのか、自分なりの答えを見つける。自分自身の考え方、捉え方を発見する。

グループ名：Face To Face

テーマ：私たちの2年間

ねらい：この人間関係科で友達と過ごしていく中で、多くの表情に出会ってきました。何気なく見てきた友達のさまざまな表情。でも、実際内面でどんな感情をもち、何を感じているかについてあまり深く考える機会がありませんでした。そこで、様々な場面での写真を探す、または撮影する。その人が、一番その人らしいどれか、自分では気づかなかった内面などを活動する中で発見していくことを目的とする。

グループ名：映

テーマ：20年目の私たち

ねらい：20年目の私たち。この機会に自分自身を見つめ直す。

グループ名：パンダ

テーマ：自分の気持ちを探して

ねらい：4人で一つのものを作りあげの中で仲間同士で協力することの大切さを学び、作品を作り上げていく一日一日の自分の気持ちの中で起きていること、メンバーの中で起きていることを知ることで、どのような過程の中で作品が完成したのかを学び、各々の改革の変化を見る。

グループ名：マグマたまご

テーマ：今しかできないこと→今できること

ねらい：昨年のF.W.実習でそれぞれ気づいたこと（自分を好きでいられる自分、生かす生かされる関係、忘れていた自分、見えなかった自分）をさらに広げるため、各自実習へいく。そこで新たに気づいたことをグループで共有しあい、個人の変革に結びつける。

グループ名：ういろないろ

テーマ：みつめよう☆名古屋市

ねらい：面倒なことを嫌う私たちが、名古屋市模型を完成させることによって、持続性、集中力を高められるようにする。

グループ名：CHILDREN WOMEN

テーマ：自閉症児について

ねらい：自閉症の症状、原因、接し方、治療方法を調べることによって自閉症に関する知識を深め、後期における（自閉症児との）ふれあいへのぞむ。あらかじめ知識をつけ理解した上で実際に接してみる中で気づきや、接し方の発見から改めて自閉症について見つめ直し、私たちなりの自閉症の捉え方を、卒業後ももっていくことで、自閉症へのさらなる理解や周りの人への呼びかけなどにつながるような研究をする。

### (3)後期の授業の流れ

表2に示したとおりである。授業の展開の仕方は、基本的には前期のプログラムの展開と類似している。第1回目の授業日に、後期のグループ活動のためのキックオフをした後は、義務面接を3回ほど2、3週間ぐらいごとに実施している。また、プレゼンテーションは、人間関係トレーニングの合宿のスケジュールとのかねあいを考えて、合宿前の第6回授業日の11月6日に行い、最終発表会は、1年間の各グループの活動をしっかり報告できる時間を確保するために、

第13回（1月22日）と第14回（1月23日）の2日の授業日を設けている。

グループの継続と各グループのテーマの継続は、一部のグループで、テーマを変更したり、ねらいは同じでも、活動内容を変更することが、時々起こるが、ほとんどのグループは前期のテーマとねらいを継続しながら、自主活動を深めている。

#### (4)成績評価の方法

研究プロジェクトの活動内容とその成果の発表と、提出されたレポートにより総合的に評価している。レポートの書き方については、前期、後期とも資料を配付し丁寧に指導していることもあり、主アドバイザーである教員が一度読んで、不十分な記述がある箇所はすべて、担当グループとの面接時間を設けて話し合いながら、指導を行っている。それぞれのグループが設定したねらいを充分クリアしていないと考えられる場合には、レポートの手直しというよりも、時には、追加課題を提示し、学生一人ひとりが本当にやり遂げたと思えるような研究プロジェクトになるように、指導を試みている。（図4）

### 3. 最後に

学生が自分の興味・関心を掘り起こし、本当に1年間取り組んでみたいことを、とことんやってみようということで、この授業は行っている。スタッフが、グループ活動の内容とプロセスに学生に問いかけていく時の、第一の基準は、「やりたいことをとことんやり遂げているかどうか？」である。研究プロジェクトの活動を通して、テーマにどの程度真剣に取り組もうとするのか、そのことは、本当にどんなふう生きようとしているのか、そしてどのように生きるのかを問うていくことにつながっているようである。また、グループのプロセスに絶えず目を向けるように指導することで、グループ内の人間関係を真剣に見つめ直し、そこから自分自身の人とのかかわりかたを吟味し、変革していくことに挑戦していくのである。

人間関係のカリキュラムの中で、1年次には、「フィールドワーク」がとても大切な人間関係の体験になる授業であり、2年次になると、選択した学生に限定されるが、この研究プロジェクトの授業がかなり学生生活の中であって大切な授業として学生には認知されている。また、人間関係科の専門科目で、自主性や自発性を大切に体験学習を標榜する教育現場であって、とても重要な科目として機能していると自負している。

表 1

〔授業スケジュール〕1928前期室編ⅣⅢⅡⅠ(No.1) 研プロA(担当) 津野 伸行

98.04.10

研プロA：人間学習応用編

やりたいことをとことんやってみよう！

グループ・プロセスとコンテンツの双方に目を向ける

変革に向けて取り組む

さまざまなスキルを身につける

身につけるスキル：グループ・プロセス判断能力、ミーティング進行能力、アクション能力、プランニング能力、情報収集能力、プレゼンテーション能力、報告書作成能力、パソコン運用能力、etc

の日は、単位取得条件のひとつとして全員出席する義務があります。欠席可能数1/6A-Aが適用されます。

1	4月10日	【発表】日程が提供されたスケジュール(2)に向けた個人またはグループでの学習活動 【発表課題を定めて】グループ・プロセス(講義)スライドについて「今日のわが事」
2	4月17日	グループ・プロセス(決り)の計画を相談する *前期グループ計画表提出(10/1)提出
3	4月24日	【発表】講義会(その1)【発表】(人として合宿で中)に参加学生は不在です 【グループ計画(その2)】【発表】(テーマを詰めながらグループ作りを始める)
4	5月1日	【発表】(講義)【発表】(講義)【発表】(講義)【発表】(講義)【発表】(講義) 【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)
5	5月8日	【活動日】
6	5月15日	【活動日】
7	5月22日	☆プレゼンテーション(その1) 旗揚げ —— レジュメ用意 「私達のプロジェクトはコレをやる！」*自己評価票と希望票を提出
8	5月29日	【活動日】
9	6月5日	【活動日】(人として合宿で中)【発表】(発表)
10	6月12日	【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表) 【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)
11	6月19日	【活動日】
12	6月26日	【活動日】
13	7月3日	☆前期発表会 —— レジュメ用意
14	7月10日	【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表) グループでのふりかえりと今後の計画を練る *夏休み・後期のグループ計画表を提出
	7月17日	【試験週】

7月17日(金)までに——グループレポート提出、自己評価票提出  
(制作物をメインとするグループはそれに添えて作品解説と活動経過をレポートする)

表 2

〔授業スケジュール〕1928前期室編ⅣⅢⅡⅠ(No.1) 研プロB(担当) 津野 伸行

98.09.25

研プロB：人間学習応用編

やりたいことをとことんやってみよう！

グループ・プロセスとコンテンツの双方に目を向ける

変革に向けて取り組む

さまざまなスキルを身につける

の日は、単位取得条件のひとつとして全員出席する義務があります。欠席可能数1/6A-Aが適用されます。

1	9月25日	後期日程の提示/夏休み中の活動をふりかえり報告会(グループで今後の計画を相談する) *グループ計画表を提出(10/1(木)ノ切)【1版】教1部を研プロA・Bに提出する
2	10月2日	【活動日】
3	10月9日	【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)
4	10月16日	【活動日】
	10月23日	【南短祭準備】
5	10月30日	【活動日】
6	11月6日	☆プレゼンテーション(その3) 後期中間報告 —— レジュメ用意 「わたしたちのグループはココまでやったのさ！」終了後、*自己評価票を提出
	11月13日	【人として合宿 11/9(月)~14(土)】
7	11月20日	【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)
8	11月27日	【活動日】
9	12月4日	【活動日】
10	12月11日	【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表)【発表】(発表) *最終発表会での「グループ発表日」を決める
11	12月18日	【活動日】
	冬休み 12/23(水)~1/7(木)	
12	1月8日	【活動日】
	1月15日	【祝日=成人の日】
13	1月22日	☆研プロ最終発表会(第1日) —— レジュメ用意 【試験週】「わたしたちの研プロ成果、聴いてください、見てください」「グループのこと」ほか
14	1月23日	☆研プロ最終発表会(第2日) 13:00~

グループレポート&自己評価票——提出ノ切 1月29日(金)16:30

(制作物をメインとするグループはそれに添えて作品解説と活動経過をレポートする)

<グループ計画表の例>

1998. 4. 30. 提出

研究プロジェクトA 前期グループ計画表

<テーマ> 研 プロ の 質 的 向 上 を 目 指 し て

グループ名：研プロスタッフーズ      メンバー名：中野清 津村俊亮 中村和彦

<ねらい> 研究プロジェクトの授業内容をより質を高く変革していくことによって、研プロをとった学生がより満足してもらえるようにする。また、自らの関心で研究を進め、それが達成できたときの喜びを味わってもらい、また、実社会でも役立つ様々なスキルを身につけてもらう。

<方 法>

1. 過去の研プロの調査：各年度の…
2. 様々なスキルについての文献研究：実社会にはどんなスキルが…
3. プロジェクトの実施：① …  
② …  
③ …

<活動予定>

- 月○日 (△) ex) テーマやねらいの話し合い
- 月○日 (△) 午前中 ex) …
- 月○日 (金) 3・4限 ex) プレゼン1 (放映機) に向けての話し合いと準備
- 月○日 (△) ex) …
- 5月中旬に ex) …
- 月○日 (金) 3・4限 ex) …
- 月○日 (△) ex) 前期発表会の準備
- 7月○日～○日 ex) グループレポートのまとめ

<基本活動日> 金曜 3・4限 ○曜口限

計画表作成上の注意

- (1) 計画表は4枚作成し、4月30日(木)午後5時までに人間関係科事務室前の廊下の「研プロBOX」(71-477-717・717-717)に提出のこと  
尚、用紙のサイズはA4とし、3枚提出すること
- (2) グループ名とテーマは別にすること
- (3) ねらいには、「何を変革するのか?」という問に対する答えを含めること
- (4) 方法や活動予定は出来る限り具体的に詳しく記述すること

研プロA98前-前期発表会レジュメ作成要領

98.06.12

前期発表会レジュメ作成要領

つぎの要領で前期発表会のレジュメ(発表要旨)を作ってください。

Ⅰ 内容：以下は最低必要な項目です。

\*左側に「研究プロジェクトA」と記す。右側に「発表日付」を記す

<p>研究プロジェクトA 98.7.3</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テーマ</li> <li>2. グループ名</li> <li>3. メンバー名</li> <li>○ 4. ねらい</li> <li>5. 方法</li> <li>6. 結果(成果)</li> <li>○ 7. 今後の課題 (夏休み期間と後期の活動にむけての)</li> </ol>	<p>研究プロジェクトA 98.7.3</p> <p style="text-align: center;">(テーマ) (グループ名) グループプロセス報告</p> <p>後期全体をとおしての、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. グループ活動とそのプロセス (出来事・真実状況の概括)</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">活動経過</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px;">G7口限</div> </div> <ol style="list-style-type: none"> <li>II. プロセスを通しての考察 (Iを分析・考察してわかってきたこと)</li> <li>○ III. 各メンバーの取り組みとその結果 (プロセスの中で私がやったことは…)</li> <li>IV. チームで仕事をする際の私の課題 (メンバー1人1人の課題は…)</li> </ol>
---	---

Ⅱ 原稿枚数： 2枚 (原稿はフロッピーに保存する)

Ⅲ 印刷部数： A4版 50部 (1枚目と2枚目を各々綴じ紐でとじる)

Ⅳ 提出場所： 人間事務室内「研プロレジュメ印刷物BOX」に入れる。

Ⅴ 提出〆切： 7月2日(木) 16:30 までに

▼▼▼ プレゼンの方法と評価 ▼▼▼ 7月3日(金)&10日(金) 13:00～

◎発表順はクジで決める。/発表時間は1グループ10～15分;質疑3分

\*順番を指定したいグループ・発表時間を延長したいグループは、その理由を添えて事前にスタッフ<中野>に申し入れてください。申し入れは、6/26(金)までに。

◎発表会最終日終了時に<レジュメ大賞><プレゼン大賞>を決定し表彰します。

各グループのユニークでインプレッシブなレジュメ作品とプレゼンを期待します!

[研プロスタッフ] 津村・中野・中村

## グループ・リポートの形式について

(グループ・リポートは以下の項目を含めてください)

- ・表紙 (テーマ、グループ名、メンバー名を入れてください)
- ・目次 (ページを入れること)
- ・ねらい (授業中に明確化した問題意識・授業課題を含めて)

### ・コンテンツ編 (活動の内容によって、形式が異なってきます)

- A. 調査・研究型
  - 方法 (調査日時、調査方法など)
  - 結果 (調査や研究の客観的な結果)
  - 考察 (結果から考えられること)
  - 夏休み・後期の課題
- B. 制作型
  - 制作過程 (日時、材料、方法、内容など)
  - 制作結果 (作品 or 写真、作品に対する評価)
  - 夏休み・後期の課題
- C. 活動型
  - 活動過程 (日時、活動内容)
  - 活動結果 (活動の結果、活動を通じて学んだこと：コンテンツ・レベル)
  - 夏休み・後期の課題

### ・グループ・プロセス編

グループ活動とそのプロセスのデータ  
(前期グルーピングからリポート作成時までを含めてください)  
プロセス・データの分析と考察  
(箇条書きではなく、文章で記述してください)  
グループの今後の課題

### ・資料 / 参考文献リスト

#### ★ グループ・リポートの形式について

- ・各グループで1部提出してください
- ・適切な形式は各グループで異なりますので、主アドバイザーと相談してください
- ・どの章、どの部分を誰が担当して書いたのかを明示してください  
(共同で書いた場合はそのことを明示してください)
- ・ワープロで作成してA4版の縦長の用紙でプリントアウトをしてください  
(枚数は、資料を含めて最低10枚以上)
- ・ファイルに綴じて、提出してください
- ・日程について

提出期限：1998年7月17日(金) 16:30まで  
提出先：人間関係科事務室内研プロ特設ボックス

#### ★ リポート記述の仕方

- ・読み手は不特定多数。誰が読んでも手続き・結果等が明確に伝わるように客観的に記述すること(簡潔・平易・正確)。
- ・時制に注意すること(方法・制作過程等は過去形で)
- ・書き直しが起きる可能性があるため、必ずフロッピーに保存してください

## レジュメ作りとプレゼンテーションに関する自己評価

学生番号 \_\_\_\_\_ 氏名 \_\_\_\_\_

1. あなたはレジュメ作りにどのように参加しましたか？その参加の仕方について自己評価すると？

2. あなたはプレゼンテーションの計画&実施にどのように参加しましたか？その参加の仕方についての自己評価は？

3. 次回のレジュメ作りやプレゼンテーションなどのグループ活動への自分の目標・課題は？

a. レジュメやプレゼンテーションなどの内容を充実させるための工夫《Content》

b. グループ活動へのあなたの関わり方の課題《Process》